「今月の１枚」

写真１

写真２

写真３

チャドクガ（ドクガ科）　*Euproctis pseudoconspersa*

チャドクガ（写真１，写真２）は，本州，四国，九州に分布し，チャ（お茶の木）・ツバキ・サザンカなどのツバキ科植物を食害し，地域や時によって大発生する害虫の一種です。幼虫は４～６月と７～１０月の年２回出現し，被害もこの時期に集中します。写真３のように，時として大発生し植栽されているサザンカを丸裸にしてしまう程の食害を引き起こします。またチャドクガは代表的な「毒蛾」であり，触れるとアレルギー症状を引き起こし「かぶれ」や湿疹に被害をもたらします。
「毛虫」を見るとどの種類も毒を持っていそうなイメージがありますが，日本に生息するガ類約5000種のうち，実際に有毒な「毒蛾」は約50種類ほどしかありません。「ドクガ科」と聞くだけで毒々しいですが，日本に生息するドクガ科44種のうち，人間に有毒な種類はチャドクガを含め9種程度です。
チャドクガは，人間の生活に比較的近い公園・緑地や庭木に植栽木として植えられているツバキ・サザンカ類に大発生することがたびたび起こるので，園芸的被害はもとより，人間に対する被害も少なくありません。

チャドクガ終齢幼虫には，目には見えない非常に小さな毒針毛（長さ約0.1mm）が１頭あたり約５０万本も持っており、幼虫を触ればもちろんのこと，脱皮殻や枝葉にも毒針毛が残っているので，庭木の手入れや駆除中でも被害を受ける可能性があります。
この毒針毛は，２齢幼虫の時から作り出し，終齢幼虫まで毒針毛を増やし続けます。幼虫が蛹になるときに，繭の

内側にこの毒針毛を塗りつけておき，成虫になるときに幼虫時代に作った毒針毛をまとって羽化します。この幼虫時代に作った毒針毛を持った雌成虫は，産卵時に卵に毒針毛を塗りつけます。卵から孵化したばかりの１齢幼虫は毒針毛を作ることはできませんが，「親が幼虫時代から卵に残していった」毒針毛を付けていくので，一生涯を毒針毛で守った生活史を送ります。

もし，ツバキやサザンカの手入れ等でかぶれてしまったのであれば，チャドクガの毒針毛による被害の可能性があります。大発生している場所では，木の下や風下にいるだけでも被害にあることがあります。毒針毛は非常に小さいので，繊維の目を通ってかぶれる場合もあります。
応急処置としてセロハンテープやガムテープを肌に貼り付け剥がして、毒針毛を取り除き流水で洗い流す方法があります。かきむしったりこすったりするのは厳禁です。毒針毛が広がり一層被害が拡大します。治療としては薬局で売られている抗ヒスタミン軟膏・ステロイド軟膏を塗るのが一般的ですが，アレルギー性の症状のため人によっては頭痛・ただれ・発熱などの症状が２～３週間およぶ場合もあるので，激しい症状が出てしまったら皮膚科等の専門医による治療が必要です。

ツバキ・サザンカ等の庭木にチャドクガの食害を受けた場合は，各種殺虫剤で幼虫の駆除はできますが，幼虫が死んでも毒針毛は死骸や枝葉に残っており飛散するので，被害を受けた枝ごと静かに袋で包んで焼却処分あるいは廃棄するのが安全な駆除法です。また粘着性のあるドクガ専用殺虫剤で毒針毛ごと固着させてしまう方法もあります。

（写真・文：松本　剛史，2007.6.25　高知市内にて撮影）

（No.155　2007.06.25　掲載）